

# インド・ブータン国境の聖地巡礼

—アルナーチャル・プラデーシュとメラの事例から—

2016年6月25日(土)  
第37回雲南懇話会  
発表者: 脇田道子



## 発表内容

インドのアルナーチャル・プラデーシュ州とブータン東部の国境地帯には地元の人びとが聖地として崇める場所が多く残されている。現在は仏教徒が多く暮らす地域ではあるが、これらの聖地の中には、仏教以前、あるいは仏教伝来の黎明期を偲ばせるものもあり貴重な文化遺産でもある。だが、そのほとんどは地元の人びと以外にはほとんど知られていない。

本日は、主として4つの聖地(時間の関係でレジュメにある5つ目は省くことになるかもしれませんが)を取り上げて、地元に残る伝承や歴史的背景などを考察し、その変化について報告する。

# チベット (中国)



# 地域の概要

- 国境を挟んだ二つの地域は、モン地方あるいはモンユルと呼ばれていた。
- アルナーチャル・プラデーシュ州は1954年までNEFAと呼ばれていた。州の成立は1987年。西カメン県、タワン県の主要トライブはモンパ。モンパが住むタワン県、西カメン県は、17世紀からチベット政府の支配下にあった。チベット人が排除され、インドの行政下に正式に入ったのは1951年のこと。モンパの多くは仏教徒でゲルク派を信奉している。インド北東部の他の州同様、開発が遅れており、政治情勢も不安定。
- ブータンは、1616年にチベットから亡命してきたシャブドゥン・ンガワン・ナムゲル(1594-1651)によって統一されたが、東ブータンのサクテン、メラはブータン政府だけでなく、タワン僧院にも税を納めていた。(第三代国王のころまで?)サクテン、メラの人びとは信仰上は、ゲルク派を信奉。国境地帯にあることから長い間外国人の立ち入りは禁止されていたが、2010年9月に解禁された。人びとの多くは、牧畜を主な生業としている。
- モンパもサクテン、メラの人びとも同じような民族衣装を身に着け、衣食住などに共通点が多い。

# 聖地①伝説ドワ・サンモの舞台モニュル

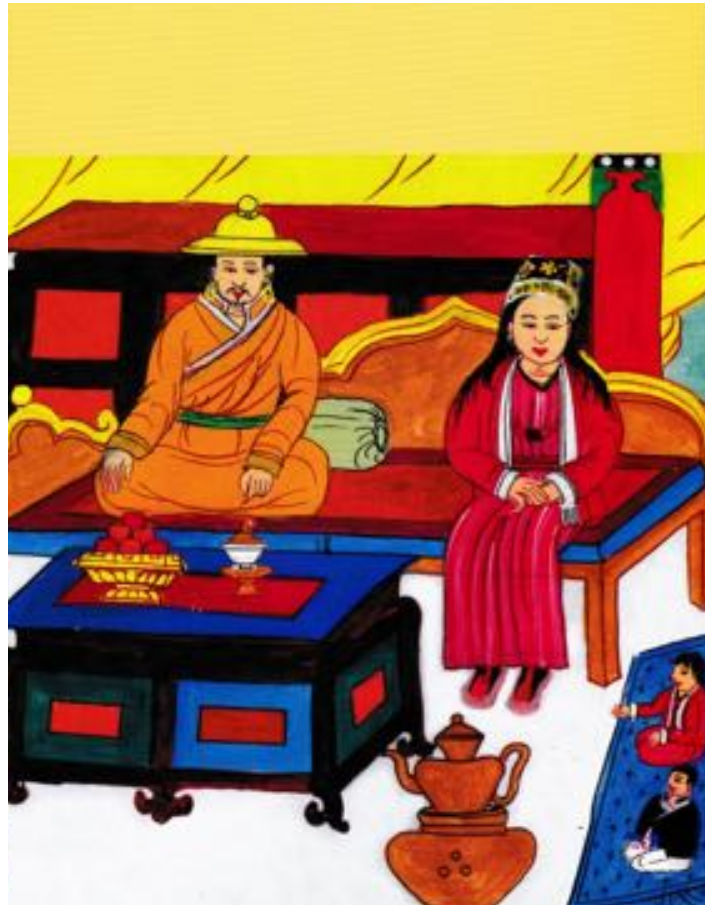
チベット歌舞劇ダーキーニー・ドワ・サンモは、モンパやブータン人の間では、「カンドウ・ダワ・ザンモ」の伝説として知られている。

**あらすじ:** モニュルのマンデルガンにカラワンポという王がいた。動物を殺生する狩猟を好んだが、ある時、狩りの途中で愛犬を見失った。その愛犬を探すうちに美しい娘ドワ・サンモを見初め、妃とした。彼女は、仏教を信じない野蛮な人びとのために天から遣わされた天女(女神)だった。

やがて王との間に王女クント・サンモと王子クント・レクパが生まれ幸せな暮らしをしていた。それを嫉妬したのが、王のもう一人の王妃魔女・ハシヤンだった。彼女の魔手から逃れるためドワ・サンモは天に飛び去り、王は牢につながれた。王女と王子はハシヤンが放った刺客になんども殺されそうになりながらも、王子がペマチェンという国の王になり、最後には、ハシヤンを滅ぼし、父王を救い出し、国中が平和と幸福を享受した。

# モンパのチベット語の教科書の挿絵

カラワンポ王とドワ・サンモ 右側に王子と王女の二人が小さく描かれている



牙をむいた魔女として描かれているハシャン



西カメン県ドムコにあるドワ・サンモの生家  
があったとされる場所は聖地となっている



# カラ・ワンポ王の犬の足跡と信じられている岩のくぼみ





# ドムコの・ラギヤル・ゴンパ



タウン僧院(正式名ガンデン・ナムギャル・ラツェ)1681年建立  
かつてカラワンポの宮殿があった場所(マンデルガン)だと言い伝えられている



左:右側の建物が魔女ハシヤンの家(タワン県ゼミタン)  
右:ハシヤンがお触れを出す時に叩いた太鼓(タワン県セル村)



# ペマ・チェンはタシガン県のチャリン？



左：王子クント・レクパと魔女ハシヤンの戦いの場だった場所  
右：魔女ハシヤンを埋葬した上に建てられたチオルテン・ナクポ（黒い仏塔）（ブータンのチャリンとメラの間）



# タワンで商売する東ブータン・タシガン県ラディからの 行商人(カン・ツォンパ)



## 伝承についての問題点

チベット・オペラを鑑賞する機会のないこの地域の人びとは、どのようにしてこの物語を知ったのか

- ブータンの場合：2006年ごろまでは高校のゾンカ語教科書にこの物語が載っていた。また教師が授業の中で演劇の形で教えることがあったという。だが、最近はその機会は少なくなっている。具体的な場所に関しては地元の人以外はほとんど知らないという。
- インドの場合：モンパは僧侶などを除きチベット語の読み書きができない人ほとんど。この物語を知る人の多くは年配者。教科書を作って学校でチベット語を教える試みが2011年から始まっているが、なかなか軌道にのらない。アルナーチャル・プラデーシュの州の公用語は英語で、学校でも英語とヒンディー語教育が中心であるため、チベット語にまで手が回らない。

## 聖地② 女神アマ・ジヨモの住処への巡礼

アマ・ジヨモ・コラ(ブータン暦7月15日から8月15日の間)

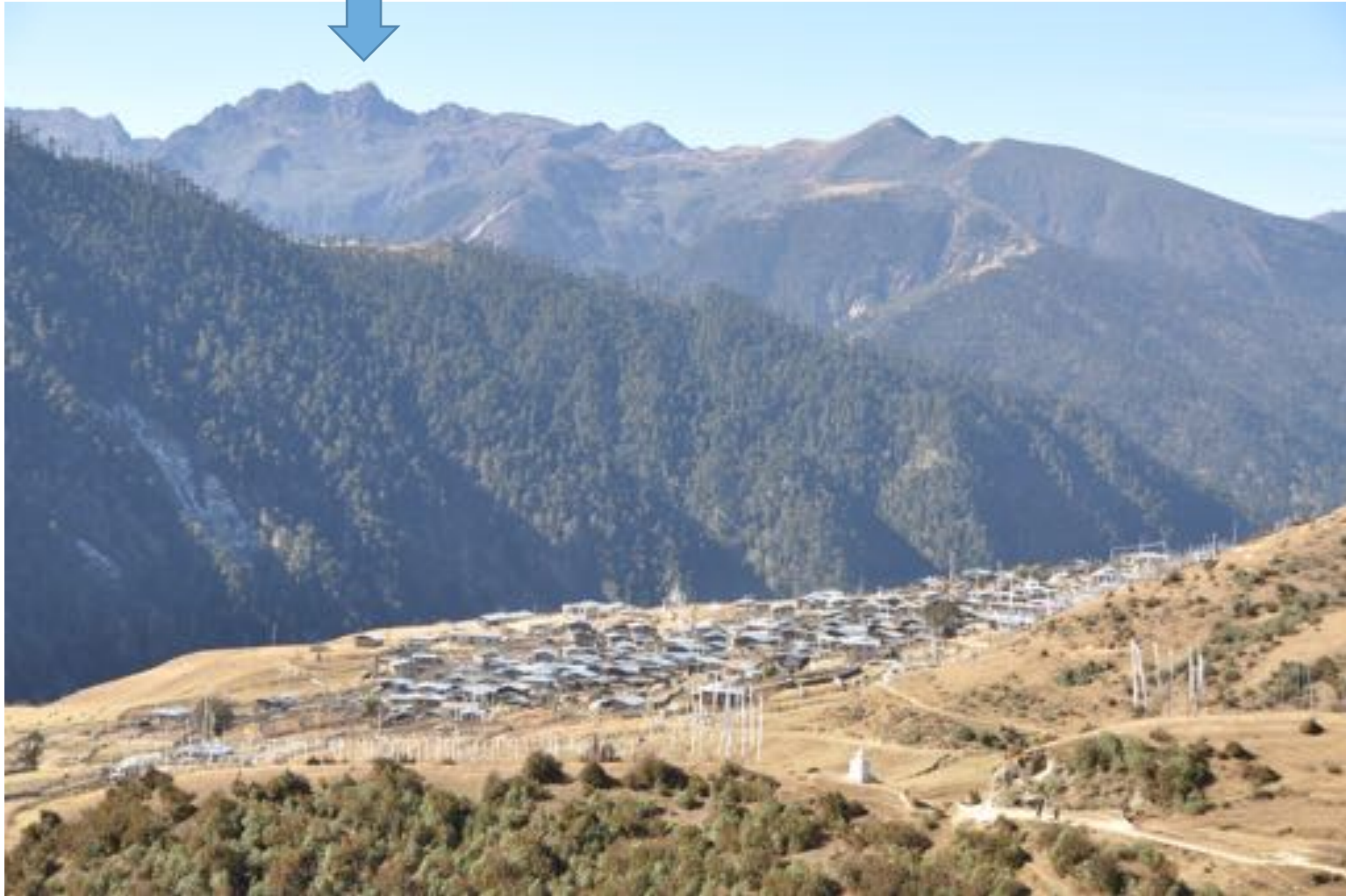


チベット南部の錯那(ツォナ)から人々をサクテン、メラへと導いてきたと伝えられるアマ・ジヨモ。壁画や彫刻ではおどろおどろしい忿怒尊として表現されている。





メラ(3500m)から眺めるアマ・ジョモの宮殿(4310m)



# 「アマ・ジョモの宮殿」の頂上



# 頂上直下のラルツォ(魂の湖)4150m (2008年9月撮影)



## アマ・ジョモ・コラの禁忌 「死」・「血」・「食物」・「煙」

1. 家族に死者が出た家は3年間はこの儀礼に参加できない。そういう家庭からは、祭りに必要なチーズやバターなどの供物を受け取ったり、馬を借りたりすることも絶対に許されない。
2. もし、村内に死者が出た場合、出産があった場合、3日間は誰もアマ・ジョモの山に入山することができない。(コラの3日前から当日までに死者が出た場合には山入りは中止になる)
3. 祭りの前日から山を下りるまで豚、鶏、鶏卵、にんにく、玉ねぎは食してはならない。煙草も厳禁。
4. 月経中の女性は参加できず、その他の女性も頂上に登ることはできない。(女性は直下の湖のラルツォまでは登れる)











# ゲンゴウ村のジョモ・ドクサール 2016年5月26日



# 死の穢れを恐れるメラの人びと

- サクテンには遺体を刻んで川に流す場所、火葬する場所があるが（左）、メラではアマ・ジョモに禁じられているからとの理由で死体処理が一切禁止されている。麓の村に降ろせない時期に遺体を一時的に塩蔵して保管する穴が村はずれにある（右上）。



# 道路ができたことによる将来への不安



サクテンのプサにて2016年5月撮影




アマ・ジョモの宮殿に登る途中で  
2008年9月撮影



2010年から2012年の間に3回盗掘にあっている  
チョルテン・ナクポ

# 増加し続ける仏塔破壊・タシガン県が最多

2013年9月13日付Kuensel紙より



Number of chortens vandalised, 2008-2012

Bumthang	39
Chukha	12
Dagana	24
Gasa	4
Haa	7
Lhuntse	42
Mongar	114
Paro	32
P/Gatshel	65
Punakha	12
S/Jongkhar	29
T/Yangste	38
Thimphu	36
T/Gang	236
Trongsa	22
Tsirang	6
Wangdue	26
Zhemgang	17

合計761件のうちタシガン県が最多の236件次はモンガル県の114件

2013年-2014年も

タシガン県が+93件

モンガル県が+97件

(2015年2月25日BBS オンラインより)



# 国王の顔を知らない小学生 (2007年8月メラ)



# 第5代国王夫妻がサクテンとメラを訪問

2015年5月 国王の訪問は初めて



# ゲルク派寺院の変化



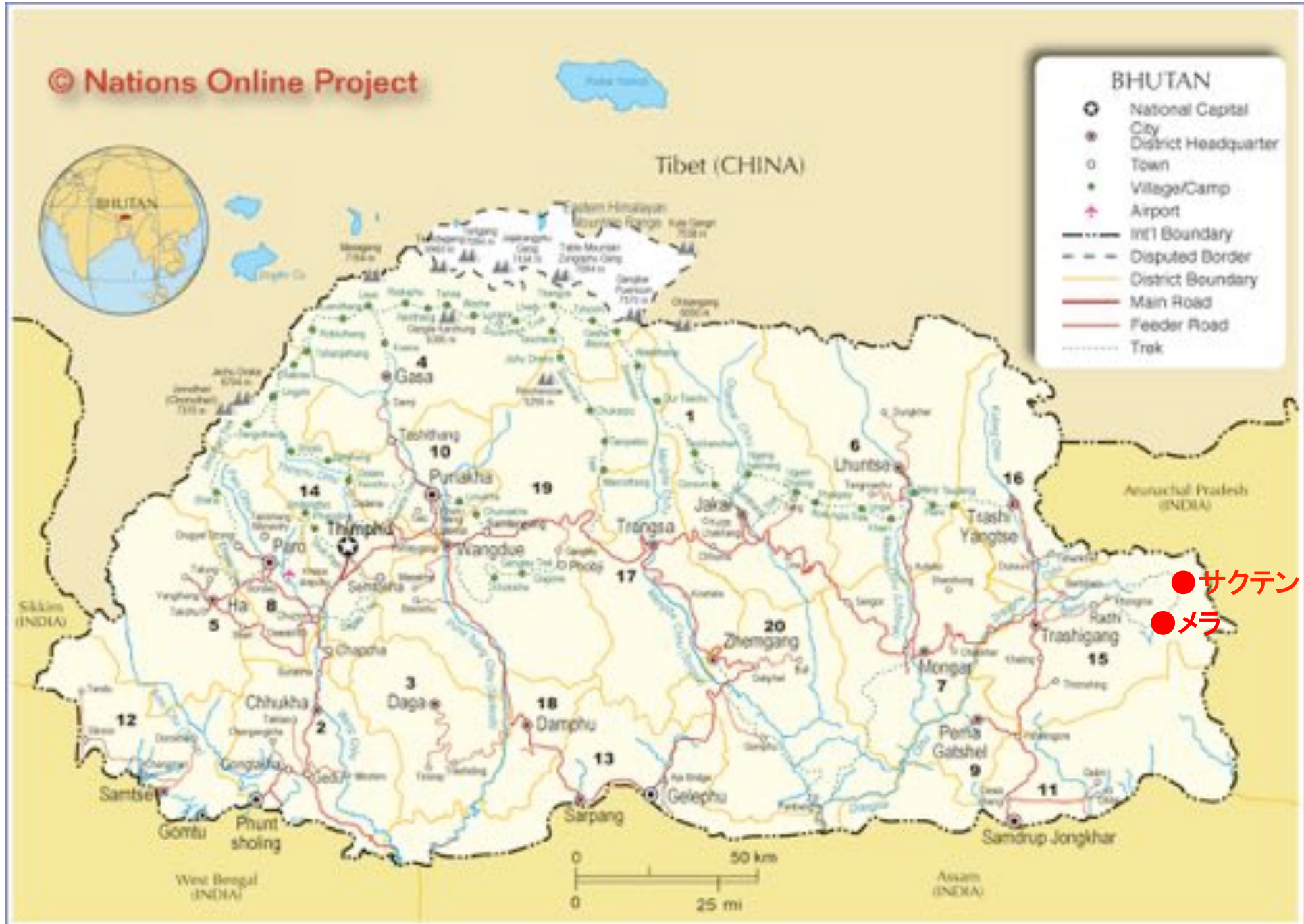


# 聖地③ツォルン・ゴンパ(Thsolung Gompa)

寺院の廃墟と国境に点在する神秘の湖



© Nations Online Project



● サクテン  
● メラ

# ラマ・ロブサン・テンペイ・ドゥンメ(1505? -1609?) ゲルク派をモンユルに最初に広めた僧

- タワンのベルカル生まれ
- チベットのセラ寺で学び(ダライ・ラマ2世(1475/6-1542)の弟子となり、その命を受けてモンユルに多くのゲルク派の寺を建てた。



西カメン県カラクタン・サークルにある  
タクルン・ゴンパも彼が建てたもの。  
左の像はタクルン・ゴンパのもの

# ツォルン・ゴンパにまつわる伝説

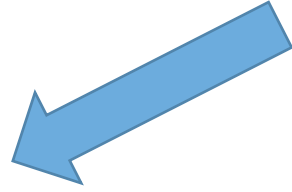
- ラマ・ロブサン・テンペイ・ドンメがタクルン・ゴンパにいた頃、メラ側の山中にある湖のすべてに悪霊が住み、麓の人びとを苦しめている夢を見た。そこでその地へ赴き、悪霊を調伏し、寺を建て瞑想した。その寺が、ツォルン・ゴンパ。
- 寺にはラマと一人のコック、馬が一頭、犬が一匹がいた。ある日、コックが水を汲みに行くと3人の美しい娘がいた。それをラマに報告するとラマは娘たちをよぶように言った。コックが迎えに行くと娘は3本の大根に姿を変えていた。大根を持ってくるようにラマに言われ、大根を切ると血が出てきたが、それをラマには告げずに料理した。その料理を食べたのはラマと馬と犬だけでコックは食べなかった。翌朝、ラマと馬と犬が悟りを得て天に昇っていくのを見たコックは、自分だけ置いてゆかれたことを嘆き、大根料理を捨てた地面にはいつくばって残りを食べようとしたがほんの少ししか食べられなかった。



# メラから徒歩で二日の山中にある廃墟となつて いるツォルン・ゴンパ（標高4065m）



コックが3人の少女に会った水場







# 雪の中の湖巡り

# 「チベット・ラルツォ」

4217m (魂の湖)



# サクテンパ・ラルツォ (4240m)



# メラクパ・ラルツォ(4254m)



# 聖地④ 縮小するダンリン・ツォ(湖) —自然現象か天罰か—



# ダンリン・ツォ (3499m)











# 湖の近くに捨てられていたゴミ



# 聖地⑤ ダライ・ラマ6世の生誕地タウン ーダム開発から守れるかー



タワンのベルカル (Berkhar)  
右に見えるのはロブサン・テンペイ・  
ドゥンメ (1475-1542) の生家





# ダライ・ラマ6世ツァン・ヤン・ギヤムツォ (1683－1706)



父親は、ペマ・リンパ  
(1450-1521)の末弟ウ  
ギェン・ザンポの6代目  
の子孫でニンマ派の行  
者であるタシ・テンジン、  
母はツェワン・ワンモで、  
ツァンマ王子につなが  
るジョヲ・クランに属し  
ていたと言われている。



# 2009年の地震で亀裂が入った右側の壁が 2015年9月に崩落







左：タワン僧院長グル・トゥルク・リンポチェ

右：ダム建設反対派のリーダー ロブサン・ギャツォ

(通称：アンナ・ラマ)

